

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(180企業)をまとめた

小売業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

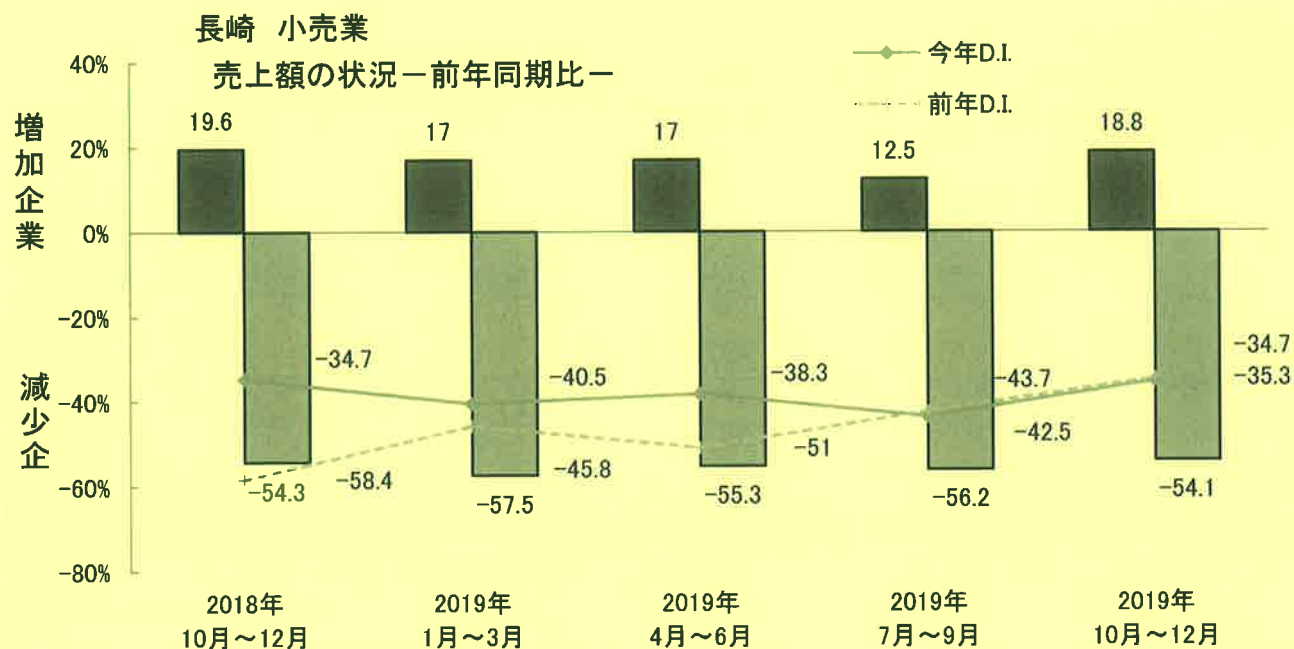
期 主要項目	2018年 10月～12月	2019年 1月～3月	2019年 4月～6月	2019年 7月～9月	2019年 10月～12月	2020年 1月～3月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴
D・I 50.1～100晴時々曇
D・I 20.1～50曇
D・I 20～△20曇時々雨
D・I △20.1～△50雨
D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 従業員が増え生産力は向上したが、消費税が上がった為か消費が落ち込んでいる気がする。新商品も投入できるので、新しい取引先の確保が優先である。 日に日に仕事量が減少していくのを感じる。このままだと先の見通しが見つからない 7～8月船のエンジン整備のため休漁。9月の台風にて網資材設備の被害が大きく休漁を余儀なくされた。売り上げは前年比大幅減の為、前年と比較できない状況だった。 食品製造では、2020年を機に食品包装、衛生面の強化から色々な製造者負担増があり対応するのに多大な出費が続いている。消費税増税で更に負担が増加し最大のピンチだと思っている。 主力商品の原材料が不漁により減少し厳しい在庫状況にあり、新規取引への営業をかけることが厳しい。原材料以外の経費も増加しており、利益率が減少している。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 新規の工事は増えてきているものの、月により売上額が大きく変動しているため、売上が上がった翌月は支払額も比例して増えてくるので、9月の売上額から厳しい業況が予想される。 第3四半期に入り下水道、道路改修、水道管布設替等の公共工事が発注され、地場企業もそれなりに活況を呈しているように見受けられるが、一方で業者の淘汰もある。少子高齢化の中、新しい時代に向けて努力していかなければならないと思う。 年末に向かって改修工事や新築工事の引合い・見積依頼は増えているが、全体的に工事量が減少している。大工さんも仕事量が減少しているようで、冷え込んできたのかなと思う。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレス決済導入に伴うPOSシステムを代替する為に、設備投資の為に借入が必要となった。経営状況は厳しい中での新規投資は不安でしかない。今後売上が大幅に上がる見込みも厳しいため、経費等節約で乗り切るしかない。 地域人口の減少もあるが品揃えが力不足で、ドラッグストア・コスモス等、消費者の他店への流出が著しい。 顧客の購買力が低下し続けている。目の前に良い商品があっても、経済事情で我慢することが多く見られる。 取引先の突然の閉店に対して、自店の対応(対策)不足で売上減となってしまった。10月からの消費税増税での影響が、今後、どうなっていくのか不安である。 少子高齢化、人口流出と大型店や量販店の増加等で需要は減少傾向であるものの、どうにか採算はとれている。今後の好転はあまり見込めない為今の内に、売上の減少をカバーできる商品を考えている。 長年、悩みの種であった高額家賃、建物を買取ることにより毎月の資金繰りがすこし楽になった。ただ、業況の悪化は変わらず、地道な努力と情報収集は必須。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> あまり例年と比べ差はないと感じるが、とにかく毎日毎日をコツコツ努力するのみだと思う。 最低賃金が上がり、更にキャッシュレス導入による手数料の発生等により仕方なく商品の値上げをした。働き方改革で、時給で働くパートにも有休が必要だと言われる。値上げによる売上の変化が心配。でもそうするしか経費の捻出ができない。 寒暖の差が厳しい為、高齢の方の来店が鈍くなっている。上手にお客様にアプローチをかけなければ、来店周期が鈍くなるように思う。 来店客数、客単価ともに減少傾向にあり、メニュー内容や業態変更も含め、集客方法から考えていくことが大事と思われる。 消費税の増税に伴い購買意欲が低迷する中、いかに消費者に寄り添える商品、サービスを提供できるかがカギとなる。企業が篩いにかける時代、厳しくはあるが会社一丸となり乗り越えていかなければならない。 クリーニング店として情報を発信するなど、自らが動くということが少ない為、新しいお客様の利用に繋げていくことが出来ていないと思う。 何もかもスピードを要求されて、じっくりと仕事に取り組みたいと思っているが困難。 売上がもう少し伸びればいいのですが、仕事を入れようにも人が不足しており入れられない状況です。これから忙しくなると思うので、何とか良い人材を確保して売上を伸ばしていけたらと思う。

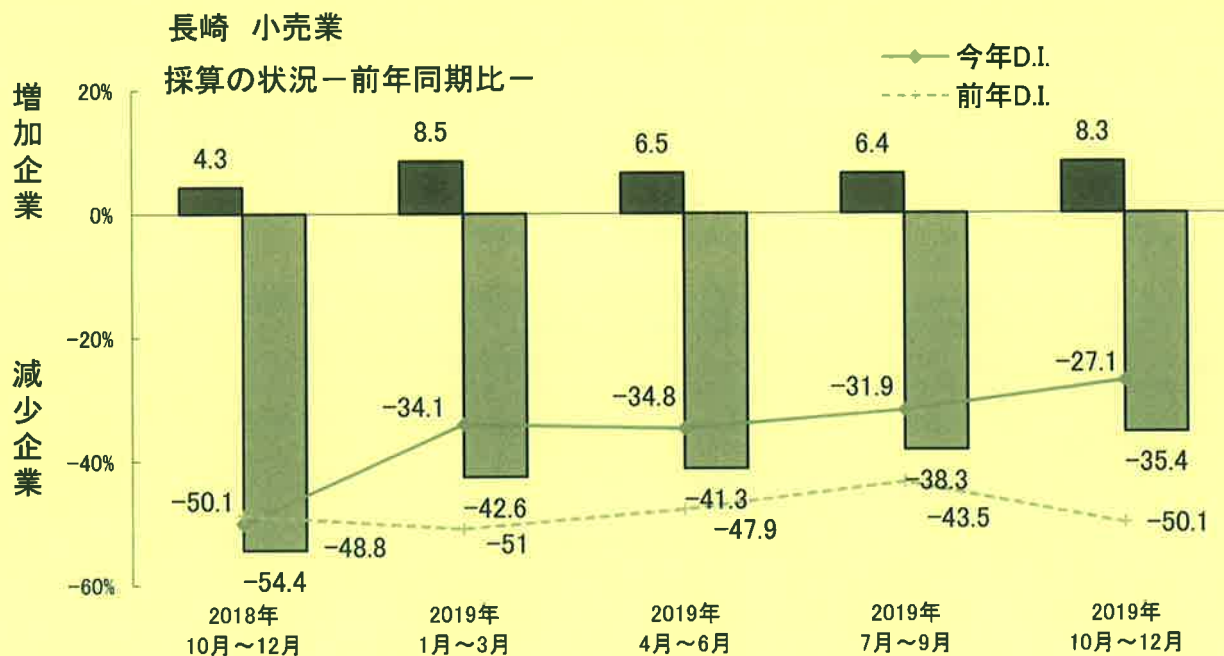
①【小売業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は18.8%で、前期の12.5%から6.3ポイント増加した。また、「減少した」と答えた企業は54.1%と、前期の56.2%から2.1ポイント減少した。このため、今期D・I値は△35.3と、前期の△43.7から8.4ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は20.0%、減少すると予測した企業は33.3%で、これにより来期のD・I値は△13.3と、今期の△35.3から22.0ポイントの改善を予測している。

②【小売業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は8.3%と、前期の6.4%から1.9ポイント増加した。一方、「悪化した」と答えた企業は35.4%と、前期の38.3%から2.9ポイント減少した。従って、今期のD・I値は△27.1と、前期の△31.9から4.8ポイント改善した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は8.7%、悪化を予測した企業は34.8%で、これにより来期のD・I値は△26.1と、今期の△27.1より1.0ポイントの改善を予測している。

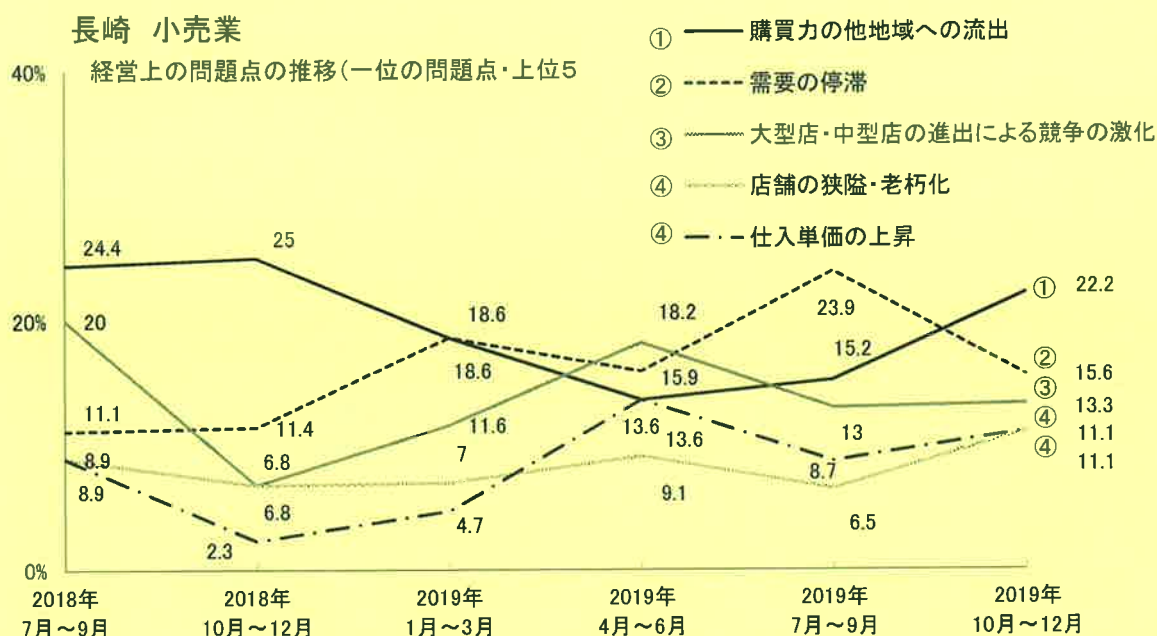
③【小売業】新規設備投資の状況

※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して 計 画 る	投資内容								実施 して い ない 画 い
		土 地	店 舗	販 売 設 備	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 2019年 10～12月	27.1	0.0	30.8	23.1	15.4	38.5	30.8	0.0	0.0	72.9
来 期 (2020年1～3月)	10.4	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	89.6

今期設備投資を行った企業は27.1%で、前期設備投資を行った企業(10.4%)を16.7ポイント上回った。来期は10.4%が設備投資を計画している。

④【小売業】経営上の問題点



今期の経営上の問題点は、第1位が「購買力の他地域への流出」で22.2%、第2位が「需要の停滞」15.6%であった。第3位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」13.3%で、第4位は「店舗の狭隘・老朽化」と「仕入単価の上昇」が11.1%で同率となった。購買力の流出や需要の停滞、更に大型店・中型店の進出等によって、厳しい状況であることが窺える。

⑤【小売業】来期の見通し

売上(収入)額			採算			資金繰り			業況		
2019年 7～9月期	2019年 10～12月期	2020年 1～3月期	2019年 7～9月期	2019年 10～12月期	2020年 1～3月期	2019年 7～9月期	2019年 10～12月期	2020年 1～3月期	2019年 7～9月期	2019年 10～12月期	2020年 1～3月期
△ 43.7	△ 35.3	△ 13.3	△ 31.9	△ 27.1	△ 26.1	△ 25.0	△ 14.6	△ 17.8	△ 35.6	△ 29.6	△ 15.6
傾向	↗	↗	傾向	↗	↗	傾向	↗	↘	傾向	↗	↗

(注) ↗ 増加・好転 → 不変 ↘ 減少・悪化を示す

来期の見通しは、「売上(収入)額」「採算」「業況」は改善を示しているが、「資金繰り」については悪化を示している。消費税10%の増税後の消費の落ち込みや、キャッシュレス対応によるPOSレジ導入などの設備投資、大型店やドラッグストアへの購買力流出、人口減少、地域消費者の高齢化による購買力低下、通販等の普及などによる売上減少など不安の声もあり、今後も厳しい状況が続くものと推察される。

景況概要

長崎県の全産業

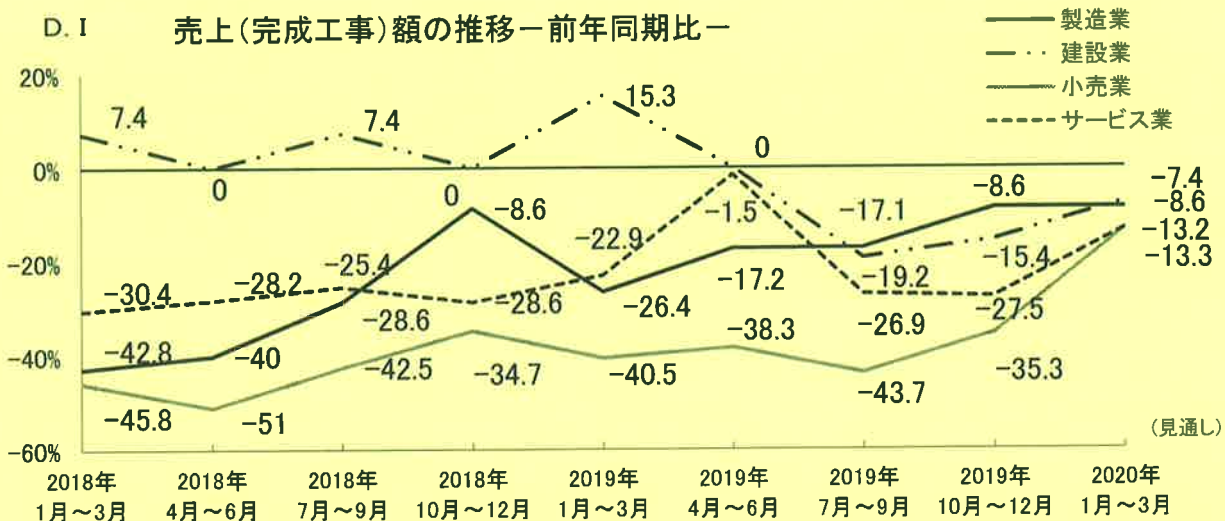
【売上】

今期改善を示した業種は、「製造業」（8.5ポイントの改善）、「建設業」（3.8ポイント改善）、「小売業」（8.4ポイントの改善）であり、悪化を示したのが、「サービス業」（0.6ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、「小売業」（22.0ポイントの改善）、「サービス業」（14.3ポイントの改善）、「建設業」（8.0ポイントの改善）で、「製造業」は不変を示している。

長崎 全産業

D. I 売上(完成工事)額の推移—前年同期比—



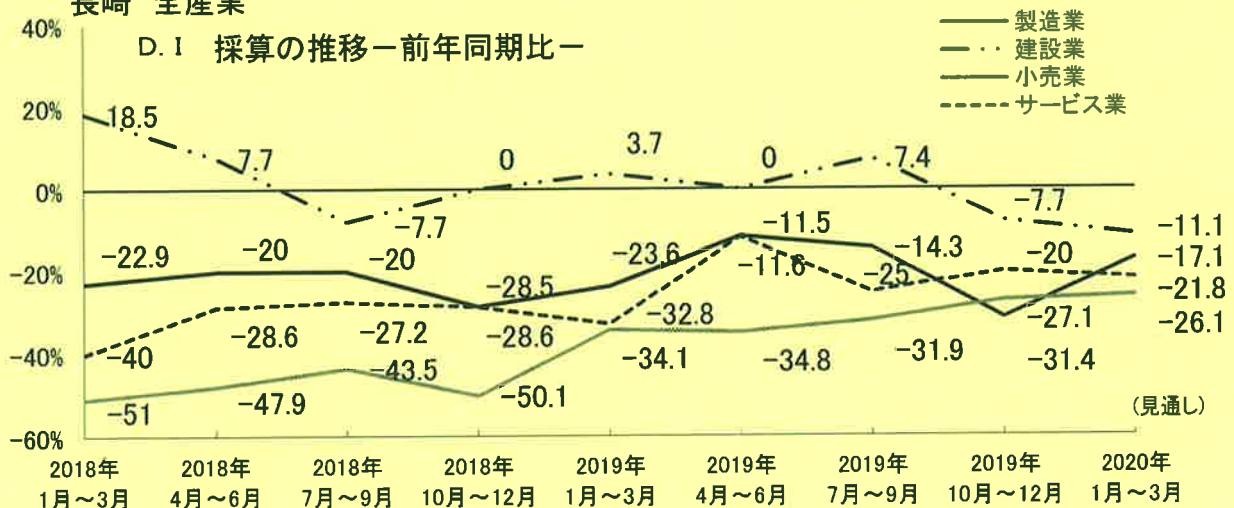
【採算】

今期改善を示した業種は、「サービス業」（5.0ポイントの改善）、「小売業」（4.8ポイントの改善）で、悪化を示したのは、「製造業」（17.1ポイントの悪化）、「建設業」（15.1ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは改善を示したのは、「製造業」（14.3ポイントの改善）、「小売業」（1.0ポイントの改善）であり、悪化を示したのは、「建設業」（3.4ポイントの悪化）、「サービス業」（1.8ポイントの悪化）であった。

長崎 全産業

D. I 採算の推移—前年同期比—



本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。

【注】 例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。